

平成21年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

小松市立高等学校

重点事項	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 「市高アクションプロジェクト」の目標を十分に理解し、キャリア教育の充実を図る。	1 生徒の学力向上や進路実現に向けて、より適切な指導・助言ができるよう個人面談・保護者懇談などを通じ、生徒・保護者へのコミュニケーションを充実させる。	個人面談の回数が A 6回以上 B 5回 C 4回 D 3回以下	B	1.2年・・・適切な時期での個人面談の回数を増やすことにより(平均5回)、学力向上や進路意識の向上のほか生徒指導全般において、効果的な指導・助言を行い、生徒とのコミュニケーションの充実を図ることができた。 3年・・・模試結果返却の際、その都度、分析や学習の方向性を示し、学習意欲の喚起を図ることができた。また、三者面談を通し志望状況の確認や保護者との理解を図った。
	2 1、2年次に実施したキャリア教育の行事や総合的な学習の時間のテーマ研究、小論文との連携において、3年生までに自らの進路を決定する。	3年生になるまでに自分の進路先が A 決定した B だいたい決定した C 考え中である D まったく決まっていない	B	進学意識向上セミナーなど、進路別でターゲットを絞った中身の濃い集会を実施することによって、進学意識を高めることが一時的にはできたが、その継続が課題である。キャリア教育に関する行事については、有意義であると答えた生徒が80%を維持しているが、そのことが「総合的な学習の時間」における小論文などと連携しているとは言い難い。そのため3年生の4月において進路先決定者は6割程度である。来年度は進路先の決定時期を2年生12月頃まで早めるように指導したい。
	3 大学や芸術関連施設見学の充実を図る。また技能と学習意欲の向上を目指し、大学関係者を招聘した説明会や研修会を企画する。	進路を考える上で参考になったが A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	A A:とても参考になった 74% B:おおむね参考になった 26%	研修先の大学や関係施設の対応がよく、また実際に本校卒業生が学んでいる大学も見学先であったことが高評価の要因である。 今年度は世界的な芸術家の招聘や音楽合同の研修旅行を実現することができた。来年度は大学の受け入れやすい日程を考慮し企画したい。また日常的には普通教科の学力向上と併せて校内外の学習の質を高めていきたい。
	4 PTAと連携して、キャリア教育の充実をはかる。	将来を考える上で A 非常に参考になった B ある程度参考になった C あまり参考にならなかった D まったく参考にならなかった	B	9月の「仕事」パネルディスカッションにおいて保護者や教員の経験等を聞き、将来を考えるきっかけとなった。部単位による出席者も多いが参加後には役に立ったという声が強い。保護者の方も有意義であったという感想が多かった。来年度は他のキャリア教育と内容・日程等を考慮し、参加者を増やしていきたい。また、10月に行われる保護者対象の類型選択説明会では、なるべく多くの情報をわかりやすく保護者に提供して、家庭においての本人との進路に関するコミュニケーションを図ってほしいと実施している。多くの保護者から参考になったと感想があった。
2 生徒の基礎学力の定着を図り、家庭学習の習慣の確立ならびに部活動と学習の両立を目指す。	1 補習や学習合宿、家庭学習を効果的におこなうことで、全員が第一志望の進路先を決定することができる。	第一志望の進路先に決まったと答えた人数が全体の A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	就職、専門学校、短大については多くの生徒が第一志望に合格できているが、大学ではその割合は低い。1、2学期の時点での第一志望は国公立大学を第一希望とするなど、高く設定しているためである。国公立大学合格にはセンター試験での得点率がすべてであるといってもよい。特に今年度のセンター試験は例年よりも問題が難化したため多くの生徒が国公立大受験を断念、あるいは変更を余儀なくされた。来年度はこの反省を踏まえ、国公立大学受験に向けた進路指導を強化したい。
	2 家庭学習の習慣を確立し、学習時間を確保する。	目標時間(平日1日100分)に達成している生徒が 3年生 A 70%以上、B 50%以上、C 40%以上、D 40%未満 2年生 A 60%以上、B 50%以上、C 40%以上、D 40%未満 1年生 A 50%以上、B 40%以上、C 30%以上、D 30%未満	3年 A 2年 C 1年 C	重点目標 m100mプランとして取り組んだ結果、目標時間に達した生徒は、1年は C (33%)、2年はC (41%)、3年は A (73%)であった。生徒への浸透をさらに図り家庭学習の習慣を確立し、学習時間を確保する必要がある。また、考査や学力テストの期間と通常の時期との間に、勉強時間の格差がみられる。
	3 校内研究授業や授業見学を行い教師の授業改善に努める。	1年間を通じ、授業見学回数が、 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 3回未満	A	授業参観ウィークを設定し、教科間の枠を越え、授業参観を行った。また、その際に、授業参観シートを有効活用した。 校内外の各種研修の機会を授業参観の良い機会としてとらえることができた。 A 70%、B10%で、A+Bで80%を越えた。1人平均5.3回。
	4 部活動への加入率を高めることにより部・学校全体の活性化を図る。	部活動全体の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	B	全体で87%。1年生は95%を越えているが、2、3年生は80%前半に減少している。・・・2・3年にかけて退部する生徒が増えないような対策が必要である。

3 生徒の国際交流への積極的な参加を促し、その支援体制をつくる。	1 修学旅行の事前指導	修学旅行の事前指導が意義あるものであると判断した生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	()	新型インフルエンザ流行のため、修学旅行先を海外から国内に変更した。変更を決定するまでや変更先が決まるまで時間を要したので、事前準備の時間が大幅に縮小された。そのため本来予定していた正当な評価ができない。しかし、急な変更や準備時間の減少にもかかわらず、生徒は柔軟に対応し、必要な準備を整えて出発することができた。海外への修学旅行に対して事前学習を含めての評価として設定したため、「評価なし」とした。
	2 英語によるコミュニケーション能力を高め、積極的に国際交流に参加する姿勢を身に付ける。	英語検定で準2級以上の資格を取得した生徒が A 70人以上 B 60人以上 C 50人以上 D 50人未満	B	朝学習にもプログラムを組み込むなど英検受験に向けての啓発を促進した結果、受験生徒および合格者も昨年より飛躍した。 準2級 受験者数152名 合格者数 59名【昨年 46名/138名】 2級 受験者数 28名 合格者数 10名【昨年 3名/33名】 (2/28現在 1次合格者含む) 英語科とAPが連携し、取り組みをさらに強化したい。
4 生徒の基本的な生活習慣の確立と社会的規範意識の向上を図る。	1 登校指導、ホームルーム等で始業時間の大切さを理解させ、遅刻をなくしベル着を定着させる。	1日の平均遅刻人数が A 3人以下 B 5人以下 C 7人以下 D 7人以上	C	年間を通して 5.4人(2月10日現在)。1学期の平均が 3.5人 2学期以降7.8人に増加。この中には、通院・体調不良や冬季の通学状況による遅刻も含まれる。B以上に達するには、2学期以降の指導強化が必要である。不登校傾向の生徒やルーズな生徒など、遅刻理由はさまざまであるが、状況を見て個別指導をおこなう。
	2 交通安全講話や登校指導で交通ルールを理解させ、登下校時の安全を図る。	年間事故件数が A 5件以下 B 10件以下 C 15件以下 D 15件以上	B	計8件。1学期3件。2学期以降5件。すべて自転車での事故。相手の車の過失によるものが多いが、自転車どうしの事故もある。…交通マナーも含めて機会を見つけて指導する。
	3 登校指導等により、挨拶の励行を推進する。	自ら進んで元気に挨拶ができると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	生徒によるアンケートより、『元気に挨拶をしている』の回答において、「あてはまる」24%「ややあてはまる」51%、保護者へのアンケートより、『よく挨拶ができる』の回答において、「あてはまる」26%「ややあてはまる」53%…登校指導等で継続指導する。部単位での指導を依頼する。評価としては「あてはまる」「ややあてはまる」の結果を見て判断した。
5 環境学習にも関心をもち、知性豊かで心身ともにたくましい生徒の育成を目指す。	1 ゴミを出さない、持ち込まない意識を向上させごみの排出量を減少させる。	昨年度の排出量の A 75%以下 B 80%以下 C 85%以下 D 85%以上	A	ごみ箱の数を大幅に減らし、持ち込まない持ち帰るをスローガンにして1年間取り組んだ結果ごみの量が昨年と比べ72%に減少した。ごみの内容を見ると飲料物の分別の意識がまだまだ低いように思えるので、分別意識の高揚をはかることが今後の課題である。
	2 多くの生徒が読書を身近なものとして捉えられるように興味・関心を持てる企画を実施する。	図書貸出人数が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C	前年度は3年生が入学当初にオリエンテーションで必ず1冊借りなければならなかったため、借りたことがない人の人数が少なかったが、それ以降はオリエンテーション時の貸出を希望者だけにしたため借りたことがない人の人数が増加している。その結果44%の生徒しか利用がなかった。自主的に図書館を利用する生徒を増加させるために、様々な企画を工夫したい。
	3 体幹を鍛え、バランス力を養うため、授業で倒立を行う時間を設ける。	目標(倒立ができる。1年女子は壁倒立ができる。)を達成している生徒が 男子 1年 2年 3年 A 80% 90% 95%以上 B 70% 80% 85%以上 C 60% 70% 75%以上 D 60% 70% 75%未満 女子 1年 2年 3年 A 90% 50% 55%以上 B 80% 40% 45%以上 C 70% 30% 35%以上 D 70% 30% 35%未満	B	目標達成出来た生徒 男子 1年 A 2年B 3年B 女子 1年 C 2年B 3年B 1年男子については85%近い生徒が達成できた。1年女子についてもあと5名でBの80%に達した。あともう少しという生徒が10名近くいるので、もう少し時間をとればよかったと思う。次は男子の目標を2・3年生は倒立歩行にしていきたい。